

令和7年度第1回一関市廃棄物減量等推進審議会会議録

- 1 会議名 令和7年度第1回一関市廃棄物減量等推進審議会
- 2 開催日時 令和7年7月1日（火）午後1時30分から午後3時まで
- 3 開催場所 一関保健センター 2階 栄養指導室
- 4 出席者
 - (1) 委員 佐藤和久委員（会長）、小坂和廣委員（副会長）、狩野勝彦委員、兜千尋委員、小野寺真澄委員、菅原寿基委員、吉川真理子委員、及川秀市委員、伊東たき子委員、村上誠志委員、佐藤勇一委員、北條喜久男委員、菅原幸子委員、熊谷律子委員
※欠席者 小野寺真澄委員
 - (2) 事務局 菅原稔市民環境部長、宮野剛輔生活環境課長、佐藤寛幸生活環境課長補佐兼環境衛生係長、伊藤孝志生活環境課主任、千葉恭章生活環境課主事
 - (3) オブザーバー 菅原彰一関地区広域行政組合一関清掃センター所長

5 議 題

令和7年度一関市一般廃棄物減量実施計画について

- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 1人（うち報道機関1人）
- 8 菅原市民環境部長挨拶

本日はご多用のところ一関市廃棄物減量等推進審議会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また委員の皆様におかれましては、審議会委員を快くお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

本審議会は、一般廃棄物の減量及び資源化に関する重要な事項についてご審議をいただくために設置しているものであり、本日は、今年度の取組内容についてご説明し、皆様から貴重なご意見を賜りたいと考えております。一関市では一般廃棄物の減量と資源化を目的とする一関市一般廃棄物減量基本計画を策定しており、これは市の総合計画に位置づけられ、環境基本計画の個別計画として、令和4年度から令和8年度までを計画期間としております。

この基本計画に基づき、毎年度、一関市一般廃棄物減量実施計画を策定し、市民や事業者の皆様にご協力をお願いする具体的な取組を示しております。

また、委員の皆様には今回の任期中に次期一関市一般廃棄物減量基本計画の策定に向

けたご意見をお願いする予定であります。

令和5年度からは岩手県が実施しておりますプラスチック再商品化事業者開拓支援事業において、ニッコー・ファインメック株式会社による製品プラスチックの分別収集を市も連携しながら実施しており、今年度が県の支援事業の最終年度となりますが、再商品化に向けた調査研究を引き続き進めております。

さらに、新たな一般廃棄物処理施設の整備につきましては、一関地区広域行政組合を主体に、一関市と平泉町が連携して、処理収集の方法等を検討しているところであります。いずれの取組においても、廃棄物の減量と資源化の推進には、市民の皆様のご理解とご協力が不可欠となり、より効果的な計画とするためにも、委員の皆様からの率直なご意見を賜りたいと存じます。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

9 会長・副会長の互選

委員の互選により、会長に佐藤和久委員、副会長に小坂和廣委員を選出した。

10 審議内容

一般廃棄物の減量化及び資源化に対する取組について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 可燃ごみに紙類が多く入っており、リサイクル率を上げるのであれば、紙類がまだまだ可能性があるのではないかと考えている。そのため、紙専用の回収袋が必要ではないかと考えている。最近、紙袋が簡単にもらえないことや持ち手のビニール部分がとれないなど、回収袋として使いやすいサイズが家庭にない。青森では雑がみ回収用の大きめの紙袋があるようで、回収袋があればより出しやすいし、最近では、紙の緩衝材も大きいため、大きい雑紙専用の紙袋があれば良いと思う。検討していただきたい。

また、オフィス古紙についても希望する事業者を一括で回収するなり、収集ルートを作るなど、やり方次第で回収量は増えるのではないかと。

事務局 雑がみ、古紙専用の回収用紙袋については、現時点では検討していないところであるがご意見いただいたことから、今年度検討していきたい。

事業者向けの古紙回収については、以前、オフィスリサイクルとして実施していたが、その後、中止したものである。こういった取組ができるかも含めて検討していきたい。

委員 事業者として、事業系の古紙については、事業系一般廃棄物、もしくは有価物という扱いで古紙、ダンボール、雑誌、新聞等の回収を従来通り行い、対応できている。ただ、先ほどの雑がみについて、インターネットサイトなどで様々な部

分の小物類の雑紙があり、やはり事業系でも取扱いが難しいところである。この部分の選別を行って、手間をかけて、極力リサイクルをするという意識向上につながるのであればいいが、疑問点として、焼却施設のエネルギーの確保という部分もあると思うため、現状の施設でエネルギーの部分は足りているのか、それとも紙類やプラスチックがさらに必要なのか知りたい。

事務局 焼却におけるエネルギーの部分について、一関清掃センターは建設から40年経過し、当時の設計から考えると、今は熱量（エネルギー）が高い状態。40年前とプラスチックごみの量が違うため、それが可燃ごみに入ってきている。新処理施設となれば、エネルギー部分も加味しての設計になるかと思う。

委員 先進的事例として川崎市は、雑がみの回収を積極的にやることで、焼却炉の規模をある程度縮小して、建設することができたという話を聞いた。また、先ほどの雑がみ専用の回収袋については、例えば分別方法や禁忌品のリスト等を回収袋の表面に印刷することで、市民への分別意識向上やノウハウをアピールするといった効果を持たせていると聞く。発展的な話としては広告を入れるなど民間からの協力も得ながら配布すると古紙回収の袋というのは現実的ではないかと思う。そのため、分別方法や回収日などの情報が記載された袋を配るとするのは非常に有効なのではないか。今後、紙のごみを減らしてリサイクルを増やしていくのが、非常に効果も大きいと思うため、ぜひ検討いただきたい。

委員 リサイクル率が低下している要因と今年度の目標が実績に対して、高く設定されているという理由は何か。

事務局 目標値は一関市一般廃棄物減量基本計画で算出しており、この計画は、令和2年度を基準年として、目標値を算出しているため、実績に対しては若干、目標値が高くなっている。

委員 この目標に対して、実績を近づけるために、市民はどのように取り組んだらいいのか。

事務局 市民の取組としては、生ごみの水切り、マイバッグ、マイボトルの利用、簡易包装、詰め替え用品の購入を積極的に利用するなどである。

また、リユース、リサイクルについては、店頭回収などを活用し、ごみとして出さないようにすることや有価物の補助金、生ごみ処理機の補助金を活用して、ごみの量を減らしていきたいと考えている。

委員 一関市でも不用品の取引サービスのジモティーを活用していたと思うが、最近では、まだ使える不用品を持ち込めるジモティースポットが話題となっている。一関市では計画していないのか。

事務局 昨年度、市役所で不要となったものをジモティー掲示板で上げ、欲しい方に譲渡したという実績はある。今年度、少し膨らましてやっていきたいと考えている。テレビで話題になっているスポットの部分は、場所、人という制約があり、一関市ではまだ取り組めてないが、将来的に検討できたらと考えている。

委員 令和4年度から令和5年度にかけてリサイクル率は悪くなったが、何か分析しているのか。

事務局 リサイクル率としては低下しているが、このリサイクル率に入っていない店頭回収やリユースショップの利用普及に伴い、資源が民間業者に流れているのではと考えている。そのため、分別意識の低下ではなく、資源として出す市民の意識は高くなっているのではと考えている。

委員 1人1日当たりの排出量も令和4年度から令和5年度で減っているため、どこで減少しているかという品目別では把握しているか。

事務局 搬入量ベースとして、プラスチック製容器包装については、年々搬入量が減っている状況である。減っている理由としては、企業努力による製品の軽量化や物価高騰による買い控え、生活用品では詰め替え製品の購入、マイバッグの利用も影響しているのではと考えている。

委員 事業系と家庭系の合計で総排出量を計算されていると思うが、減ったのは事業系、家庭系、両方のどれか。

事務局 令和4年度の事業系の排出量が8,221トン、令和5年度が8,240トンで事業系は増えている状況であり、家庭系は減っている。

委員 人口推移で減っているにも関わらず、事業系が増えている場合、家庭系は減るのか。他県から流入する観光客関係もだが、事業系から漏れ出したものから、一般家庭に流入しているということまで視野に入れ、分析していただきたい。

委員 一関市一般廃棄物減量基本計画の市の具体的な取組について、どうやって周知していくのか。また、一関市災害廃棄物処理計画とはどんなものか。

事務局 市の具体的な取組の周知の方法としては、ホームページ、FMあすも、ケーブルテレビなどで呼びかけをしながら取り組んでいきたい。一関市災害廃棄物処理計画は令和3年度に策定している。内容は、主にごみの発生量の推計や職員の行動に関わる部分である。また、仮置き場の指定をしており、一関市全体で10か所程度の場所を確保し、災害になれば、仮置き場の設置、周知に努めることなどが主な計画である。

11 その他

委員 リチウムイオン電池について、処分方法で何か取組等があれば、お知らせして

ほしい。

事務局 一関市において、基本的には購入したお店、ネットであれば販売店に問い合わせ、そこで回収していない場合は清掃センターに持ってきてもらい回収という手続きを周知している。

現状、一関市として今まで通りの案内であるが、新処理施設整備のタイミングで回収方法を検討するという事になっている。

12 担当課 市民環境部生活環境課